

第1回 インフラ海外展開推進のための有識者懇談会 議事概要

日 時：平成24年5月24日（木）11:00～12:30

場 所：中央合同庁舎3号館 4階幹部会議室

- 冒頭、大臣より、「先日開業した、東京スカイツリーは日本の技術力の素晴らしさを示す好例。しかしながら、インフラ海外展開という点において、欧米・韓国との厳しい競争に打ち勝っていくためには、関連する分野でコンソーシアムを組んで、新しい価値も付けて、そのプロジェクトをいかにマネジメントしていくかが重要である。日本の成長戦略の柱に据えているインフラ海外展開に向け、委員の皆様のお知恵をお借りしたい」旨のご挨拶があった。
- 各出席者から、インフラ海外展開の現状と課題について、以下のようなご発言があった。

（総論）

「上滑りではない」ということがこれからのキーワード。日本がやりたいことと、相手の求めていることとのミスマッチはないか、カラ回りをしていないのか確かめていくべきであり、成功例をつくること、現実の成果につながる施策を講ずることが必要。

（ジャパン・イニシアティブ）

オールジャパンにこだわらず、他国のプレイヤーも巻き込みながら、技術、ノウハウ等をもって、ジャパン・イニシアティブという形で日本が主導権をとることが重要。現地企業との連携や現地人材の採用といった現地化も必要。

（日本ブランド）

期限を守って良いものを作るという日本の信用、信頼は世界から高く評価されており、ベーシックカルチャーとして次の世代に継承すべき。一方で、訴求力のある世界に通じる技術をブラッシュアップしながら、見える形でブランドを築くべき。

（モデルプロジェクト）

現地にあわせる取組が不足しており、現地でデモプラントを作るなど地域に見せていく必要がある。国内であってもエコシティ等の展開を急ぎ、実績を作っ

て見える化すべき。

（現地ニーズにあわせた対応）

相手のニーズにあわせて、それぞれの地域に最適なものを作っていく、日本のものから何をそぎ落としていくかという視点が必要。そのためには日本国内でのブラッシュアップ、相手国のニーズにあわせた技術開発も必要。

（人材等）

現地の人々の理解を得ることが重要であり、産業戦略的に留学生を採用していく等、長期的なポディブロー戦略が必要。官民の連携はもちろんだが、学との連携も必要。内部での人材育成に加えて、外部人材の活用が必要。

（政府の役割）

トップセールスに加え、トップクレームが必要。政権交代等によって約束が反故にされる政治リスクや資金回収リスクも課題。今後、発注者になる地方政府との連携も重要。

（鉄道）

総合コンサルができたのはよかった。運営面についてどう取り組んでいくかは考えなくてはならない。新幹線は日本の技術の象徴であるが、一方で、在来鉄道の改良といった地道なネットワーク部分にも取り組み実績をあげていく必要がある。

（エコシティ）

日本や欧米でデベロッパーとして行ってきた企画から販売管理までのノウハウは現地でも十分活かすことができる。URの区画整理などのソフトのノウハウもある。

○ 次回は6月4日（月）に開催し、必要な施策と次年度に施策へのインプットについて議論することとなった。